

# 国際物流戦略チーム 中・長期対応方針(案)

平成18年3月10日第二回本部会合  
資料2参考

【国際物流戦略チームの取組課題】		【国際物流戦略チームの対応方針】
拠点整備	コンテナ船の大型化、抜港の動向を見通した港湾機能の充実	「関西シリコンベイ構想～大阪湾港湾の基本構想～」に基づき、各種施策の具現化に向けて取り組んでいく。
	内航フィーダー輸送の促進	瀬戸内海諸港との更なる連携促進の観点から、大阪湾諸港全体としての連携方策について、阪神港広域連携協議会を越えた枠組みで検討する。福利厚生関係サービスの充実については、今後の船舶利用、貨物集積、利用ニーズ等の推移、動向を見極めつつ、提供のあり方について検討を行う。 内航フィーダー輸送を活性化させるとともに外国フィーダーとの競争力を高めるため、 <b>効率的な内航フィーダーネットワークの構築に向けた検討を行う。</b>
管理運営の効率化	ターミナル管理運営効率化に向けた埠頭公社改革の推進	官民多岐に亘る港湾関連事業主体の料金をプール制にする等の措置は困難。  <b>平成17年末に阪神両港におけるメガターミナルオペレーターが特定国際コンテナ埠頭の運営事業者に認定されたことを受け、今後、岸壁の直貸しに向けた調整を行う。</b>
	内陸デポ設置、利用調整による空コンテナ輸送の効率化	背後輸送の効率化等について、IT化による支援の観点から、「阪神港広域IT研究会」において空コンテナ貨物マッチングシステム等具体方策を検討。
IT化等による作業・手続きの効率化	IT化の促進等によるターミナル運営の効率化等	各種輸送の効率化等についてIT化による支援の観点から「阪神港広域IT研究会」において具体方策を検討。 短期対応施策の取り組みを通じて、またコンテナターミナルについては既に364日24時間荷役可能となっていることを踏まえ、24時間対応に係るユーザーの問題意識、対応側の見解などを具体的に整理、問題の所在を明らかにし、具体措置を検討する。
	従来の枠組みを越えた物流情報プラットフォームの構築や情報化のメリットの具体化	
国内外ネットワーク整備 環境問題等への対応	国際港湾・空港と有機的に連携した道路輸送ネットワークの充実	ネットワークの充実を更に図る観点から、以下の整備を推進する。 1. 高規格・都市高速道路整備(第二名神、京奈和自動車道、第二京阪道路、都市再生環状道路、阪神高速湾岸道路等) 2. 交差点改良等のボトルネック解消 3. TDMの実施 4. ITS導入(この中で、入港・通関・税関・道路システム)、ETC(走行経路情報から最適経路検討・選定) 5. 各種社会実験の実施と有効な施策の恒久化 6. 道路物流関係者の物流検討会の活動 7. <b>阪神高速(株)では平成20年を目標として、対距離料金制への移行に向けて社会実験等の実施</b>
ロジスティクス機能の整備	ロジスティクス・ハブの形成	<b>コンテナターミナルと関連した後背地の倉庫への優遇施策(土地賃貸料等)については、今後のスーパー中核港湾事業の進捗状況や他港での取組を見ながら、検討を行う。</b>
24時間空港の活用等	深夜便を誘致し、活用することによるリードタイムの短縮及びインタクト輸送の拡大	<b>モデル事業を契機とした深夜貨物便の増便及びネットワークの充実を図る。</b> 2007年の2期滑走路供用開始以降を含めた関空への(からの)効率的な輸送モードのあり方について引き続き検討を行う。
	施設使用料の空港間格差を是正	<b>様々な空港間格差の是正方策について、今後とも引き続き検討する。</b>
	荷主の多様かつ高度化する物流ニーズへの柔軟な対応	<b>ユーザーの多様なニーズに対応したSea &amp; Air輸送の実現に向け、検討を行う。</b>
推進体制	常設化、実効性ある機動的な対応	チームの機構形態の検討
	関西経済活性化の視点を重視	

青文字は第一回本部会合(平成17年6月30日)から更新された対応方針